

テレワークを活用した魅力あるワーケーションプログラムの作成

常葉大学 経営学部 小豆川ゼミ
指導教員：教授 小豆川裕子

参加学生(25名)：○リーダー

3年：○佐野智也 井上侑星 クンドゥ 紀之 鈴木友也 鈴木瑠辰 徳能耀一

2年：赤堀裕斗 飯野太一 池ヶ谷瑠那 石川優月 大棟奈々美 加藤純香 久保田美帆
小林穂乃香 坂野莉流 佐々木蓮 柴田真奈 鈴木菜々美 鈴木怜奈 田口真衣
多々良朱里 一杉空河 益富咲菜 望月陽向 渡邊柊斗

1 要約

2020年7月、富士市は小長井市長が「テレワーク先進都市宣言」を発出し、総合的なDX、テレワーク推進のための取組を行っている。2021年3月には「テレワーク推進ロードマップ」を策定し、市内事業所のDX・テレワーク導入促進、首都圏からのテレワークを行う企業の誘致、テレワーク移住の促進などの施策を展開している。

本研究はその一環として、首都圏の企業、ワーカーを対象としたワーケーション¹プログラムを作成し、学生の発想力と行動力を活かした地域活性化に貢献することを目的に実施した。

まず、他地域における先進事例の動向等を分析し、富士市におけるワーケーションのあり方や、ワーケーションプログラムに活用できる地域資源を考え、関連各者へのヒアリング、ディスカッション等を通じてワーケーションツアーのプログラムを作成した。プログラムは『「富士市で働く」を楽しむワーケーションモニターツアー』の一環として11月22日、23日に実施し、ゼミ生はツアー参加者のアテンド、運営全般を関係者と協働しながら実施した。あわせてその成果をまとめ、富士市のホームページ、SNS等における発信等のサポートを行っている。

2 研究の目的

本研究は、「テレワーク先進都市」を目指す富士市の施策の一環として、首都圏の企業、ワーカーを対象としたワーケーションプログラムを作成し、若者の発想力と行動力を活かした地域活性化に貢献することを目的に実施する。

3 研究の内容

(1)実施体制と役割分担、(2)実施時期と内容は以下のとおりである。

(1)実施体制と役割分担

- ・富士市産業交流部 産業政策課：課題提出者
- ・小豆川ゼミ25名：11月22日、23日のワーケーションモニターツアーの企画・アテンド・運営全般（全体を5グループに分けて、企画・準備を実施した）
- ・コニカミノルタ静岡株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社：富士市ワーケーションツアーにおいて、他のツアーも含め、全体企画、ディレクション、運営進行・手配
- ・株式会社JOINX：運営管理
- ・企画協力：富士市商業労政課、住宅政策課、シティプロモーション課、富士商工会議所他

¹ ワーケーションとは：WorkとVacationの造語。テレワークを活用し、普段の職場や居住地から離れ、リゾート地や温泉地、さらには 全国の地域で、仕事を継続しつつ、その地域ならではの活動を行うこと（ワーケーション自治体協議会：Workacion Alliance Japan(WAJ) の設立趣意)

(2) 実施時期と実施内容

2022年

8月25日：キックオフミーティング、課題の提示（他地域におけるワーケーション施策、プログラムに取り入れたい地域資源、本施策の考え方、アピールポイント等）

9月22日：課題の発表と共有・フィードバック

◇10月～当日：準備調査、ヒアリング、ディスカッション、進行の準備

10月6日：ワーケーションプログラムの企画内容の発表・フィードバック

11月上旬：運営マニュアル作成

11月中旬～当日：最終確認

11月22日・23日：富士市ワーケーションモニターツアーの実施

11月下旬～12月上旬：プロジェクトの振り返り、常葉大学HPの発信、ふじのくに地域・大学コンソーシアムFacebook・富士市ホームページ・JOINX新聞の原稿作成作業

2023年

1月12日：全体報告会

1月末～：成果発信

モニターツアーの内容

11月22日（火）1日目：物件紹介、ビジネス交流会

◇物件紹介：個人対象

| 時間 | 内容 |
|-------|------------------------|
| 10:30 | LITTLE L 見学 |
| 11:15 | TSUKURIBA 見学 |
| 13:00 | 住宅政策課より「空き家バンク」の紹介 |
| 13:15 | エスプラット coworkingスペース紹介 |
| 14:30 | 物件No.32 内覧 |
| 15:30 | 物件No.40 内覧 |
| 16:15 | きの屋 見学・紹介 |



◇物件紹介：企業対象

| 時間 | 内容 |
|-------|-------------------------|
| 10:05 | kamileon café 見学 |
| 10:45 | LITTLE L 見学 |
| 11:45 | TSUKURIBA 見学 |
| 12:00 | エスプラット coworkingスペース 見学 |
| 14:00 | 山田製茶様 商品紹介 |
| 15:00 | 岩本山かりがね観光課園様 商品紹介 |
| 16:00 | 各市内物件 見学 |



◇ビジネス交流会

| 時間 | 内容 |
|-------|-------------------------------|
| 18:00 | 交流会の趣旨・当日の流れの説明 |
| 18:05 | 自己紹介 |
| 18:40 | 名刺交換・軽食 |
| 19:10 | 学生からの企画 |
| 19:40 | このみ会より事業紹介 |
| 19:50 | LITTLE L代表早川さんより、事業の紹介と議題について |
| 20:00 | グループディスカッション |
| 20:10 | グループ内で意見交換 |
| 20:20 | グループごとに意見発表 |
| 20:50 | アンケート記入時間 |
| 20:55 | 挨拶 |



11月23日（水）2日目：アクティビティ

◇アクティビティ：個人対象

| 時間 | 場所 |
|-------|------------------|
| 13:20 | 富士山かぐや姫ミュージアム 見学 |
| 14:10 | 佐野製茶所 見学 |



◇アクティビティ：企業対象

| 時間 | 場所 |
|-------|------------|
| 13:00 | プレゼン発表 |
| 13:15 | 紙バンド手芸体験 |
| 14:45 | 完成品鑑賞・記念撮影 |



4 研究の成果

(1) 当初の計画 ほぼ予定どおりに実施。

(2) 実際の内容 A：当初計画に加え、モニターツアー参加者のアテンド・運営を関係者と協働しながら実施し、2023年全体報告会を開催した。

研究成果を本学ホームページ、ふじのくに地域・大学コンソーシアムFace Book、富士市ホームページ、JOINX新聞等で発信している。

(3) 実績・成果と課題

①実績・成果

ゼミ生は本研究を通じて、地方創生施策の最前線であるテレワークを活用したワーケーションの基礎知識や動向を理解し、連携・協働する関係者とディスカッションを行ったりアドバイスをいただきながら、富士市の魅力を活かしたプログラムの作成を行った。あわせて1泊2日のモニターツアーのアテンド、運営全般を関係者と協働しながら実施した。学生は、調査力、交渉力、多様な主体との連携力・コミュニケーション力、プレゼンテーション力、不測事態や状況変化に応じた対応力を習得することができた。

②課題

企画・運営に関する課題としては、「（募集期間の長期間により）モニターツアーを企画する時間が少なかった。もっと参加者がツアーに求めていることを把握すべきだった」「ツアー当日も、ゆとりをもって時間を調整したかった」「各グループリーダー自身の意見で進めたところがありもっとメンバと交流すべきであった」等の意見があげられた。

モニターツアーの内容に関しては、ゼミ生からは「車がないと不便であり、観光地への交通アクセスを増やすべき」という意見、モニター参加者からは「富士だけでなく様々な場所を回っているため、富士ならではの日常情報や体験も知りたい」という意見があげられた。

(4) 今後の改善点や対策

今後の改善点や対策としては、参加者情報（属性・ニーズ）を事前に把握して対応を行うこと、モニター募集期間設定の改善があげられた。リーダーとメンバのコミュニケーション不足への対応としては、意識改革、情報共有・伝達手段の改善があげられた。

5 課題提出者への提言

富士市への提言として、今後のワーケーションモニターツアーの企画内容については、(1) ビジネスマッチングに加え、富士市在住市民と企業の交流会への参加、

(2) 企業と学生とのコラボレーション機会の創出、(3) ツアーキャンペーンの実施、働く、買う、散策する、交流するなど、「富士市のリアル」の体験のさらなる創出があげられ、モニターツアー実施の手段として、交通アクセス手段の検討、関連企業との連携等があげられた。

6 課題提出者からの評価

課題提出者からの評価は以下のとおりである。

本市が提案した、「テレワークを活用した魅力あるワーケーションプログラムの作成」に参画いただき、ありがとうございました。本市はテレワーク先進都市を目指しており、令和5年1月には新富士駅の商業施設内に駅直結型のコワーキングスペースも開設しました。今後は、国が進めるデジタル田園都市国家構想に基づき、首都圏からの人と仕事の流れを創出する必要であり、コワーキングスペースはその拠点となっていきます。

今回、小豆川ゼミ生が人と仕事の流れを生み出す一環として、ワーケーションプログラムを作成し、実際のアテンドまで行っていただきました。参加者のアンケートでは全員から高評価をいただき、学生のアイデアや感性が活かすことで富士市の魅力が十分に伝わったものであったと感じています。このプログラムを活かし、企業やワーカーの誘致及び移住を今後も進めていきます。(富士市役所 産業交流部産業政策課)

◇11月22日・23日実施『「富士市で働く」を楽しむワーケーションモニターツアー』全体写真



◇ワーケーションモニターツアーの発信の富士市の専用サイト



<<https://itumo.fujicity.jp>>